

## ギラド・シャリート

2011年10月15日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

不法に捕虜として拘束されてから1934日後にして、1027人のテロリスト、あるいは治安を脅かす可能性の高い囚人と呼ばれる服役囚との交換条件に、ギラド兵士の開放について署名されました。(イスラエル人1人に対しテロリスト千人!)議会での投票では、賛成26票反対が3票でした。

近い将来における彼の帰還に多くの人が喜ぶ中、多数のテロリストの開放により、近い将来どのような危険を孕んでいるかを危惧する向きも多いのです。まず、このことは PLO に対するハマスの力を強めてしまう上、将来的なテロ活動を増やす事になります。

今回釈放されるテロリストは569人の罪のないイスラエル人を殺してきたのです。前回釈放された囚人により既にイスラエル人180人が殺されています。イスラエルの見解は「シャリートはテロリスト1000人分の価値がある。」でしたが、それが焦点ではないのです。シャリートはテロリスト百万人の価値があるのです。問題はこの釈放により、一体どれぐらいのその他の罪のない人々が殺害されるかという事です。

今回の合意を可能にした要素の一つはエジプト暫定政権が間に入り調整役をした事でした。またシャリート交換の手続きを個人的に率いて来たのはベニヤミン・ネタニヤフ氏であり、彼の政治的勝利として捉えることができます。仮庵の祭りの前夜にギラド釈放合意の署名が行なわれたので、かれはこの祭りの終わりには家に帰る事ができるでしょう。

## モシェ・ダヤン

今週には有名なイスラエルの政治的軍事的リーダー、モシェ・ダヤンの没後30年を記念する日があります。まるで聖書にあるような英雄悲劇譚として、数々の彼の功績に関する記事がイスラエルの新聞各紙を飾る事でしょう。

彼は最初のキブツ「デガニヤ」で生まれた最初のイスラエル生まれのイスラエル人の一人でした。彼は恐れを知らない軍人であり、浅黒い、ハンサムな風貌をもち、イスラエル訛りのヘブライ語を操り、旧約聖書中の預言者の詩を豊かに引用する人物でした。

究極的には、彼は古い離散したユダヤ人の対極としての新しく生まれたイスラエル人のシンボル、つまり農業をし、考古学と軍事に詳しく、父祖の土地を自分の故郷とする者でした。開拓者、闘争者としての挑戦に対し、現代的、健康的、強い態度で対処し、性的不品行には目をつぶる、そのような者でした。

1967年戦争(第3次中東戦争)において、彼の勝利者としてのイメージは頂点を極めました。イスラエルが神殿の丘を含むエルサレム旧市街を奪還した時、彼は国防相でした。その当時たくさんの英雄が輩出されましたが、彼は英雄の中の英雄だったのです。

しかし1967年から1973年の間に悲劇的な変化が起こりました。他のイスラエル人と同じように、彼は傲慢で、気ままで、名声欲と金銭欲にまみれた存在であると見なされるようになったのです。ヨム・キプール戦争(第4次中東戦争)における周辺アラブ諸国からの攻撃は、イスラエルが予想していないものでした。数多くの批判の矢面にダヤンは立たされたのです。

その戦争の犠牲者数と彼のリーダーシップの欠如により、ダヤン人気は下火になっていきました。政治家の同僚や家族内の問題、また経済的な問題がありました。昔日の英雄は衰えていったのです。イスラエルでは、彼の勝利の栄光の日々と落ちぶれてからの後年は、神話として知られています。彼の人生の浮き沈みは、イスラエル社会において良い時と悪い時双方の象徴として用いられています。

### エジプトでクリスチャン26人が殺害される

(エルサレムポスト紙キャロライン・グリックの記事より抜粋、全文はこちらを[クリック](#)。)

なぜ西洋の各国や諸教会がイスラム世界のクリスチャンの受けている迫害に対して目をつぶっているのでしょうか。日曜日の夜、エジプトのコプト教会信者たちはカイロのエジプト国営テレビ局本部で平和的な徹夜の祈りを捧げるはずでした。最近2つの教会がイスラム暴徒に焼かれた事と、国に支援されたイスラムグループによるクリスチャンに対する暴行の急激な増加に抗議するため、千人のクリスチャンがカイロに集まりました。

抗議者たちは、軍隊の迅速な援護をうけたイスラム暴徒に囲まれ、攻撃されました。兵士やイスラム暴徒により、およそ19人から40人のコプト教徒が殺害されました。彼らは軍用車両に轢かれ、殴られ、銃撃され、カイロの街を引き回されたのです。

### 聖徒の栄光化

(最近のメッセージから抜粋)

聖書の記録によると、3人の人間がこの世で生きている間に物理的な栄光化を経験しました。最初は、シナイ山で2回の40日間の断食を終えたモーセ(出エジプト記33~34章)でした。2番目は初めての殉教者ステパノが宗教的な迫害者たちに石打にされた時でした。3番目はもちろんイエシュア、彼自身が変容の山においてでした(マタイ17章、ルカ9章)。

これら全てのケースにおいて、彼らの顔が光り輝いていたのです。

**出エジプト記34章29節**—「モーセが山を降りて来たとき…自分の顔のはだが光を放ったのを知らなかった」

**使途の働き6章15節**—「議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。」

**マタイ17章2節**—「そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。」

イエシュアは、弟子たちに彼らが地上における神の御国がどのようなものかを一時的に経験(味わうことが)できると言われました。彼が祈り、栄光の御姿へと変容したのです。来たる世では、私たちは光り輝く栄光のからだを与えられる(訳注:原文は「手に入れることができる」)のです。イエシュアは、栄光の力は私たちの意志にもとづいており、それを増やす事も減らす事も可能であるという事を示すため、この事を起こされたのです。

それは私たちのうける報酬の一部です。信仰に従って主に仕えれば仕えるほど、彼の復活した身体は次の世において光により輝くのです。星の光度がそれぞれ異なるように、個人毎に復活した身体における栄光の度合いは異なります。

興味深い事に、古代イスラエルの偶像礼拝や不品行、あるいは宗教的ユダヤ人による殺害に至るほどの迫害をもってしても、モーセやステパノの栄光の力は止められる事はなかったということは、注目しておきたい点です。しかし、ペテロと弟子たちの現世的な会話により、栄光は一瞬の時間に短縮されてしまいました。

[メッセージ全文の無料ダウンロードはこちらを[クリック](#)ください。]

### **エルサレムでのアウトリーチ(対外伝道活動)**

今週末に、私たち RCC メンバーによるスペシャルホリデーアウトリーチがエルサレムで予定されています。どうぞ油注ぎと収穫のため、(今!)お祈りください。本当に多くのまだ救われていないイスラエル人が来る事を期待しています。アシェルがメッセージを取り次ぎます。